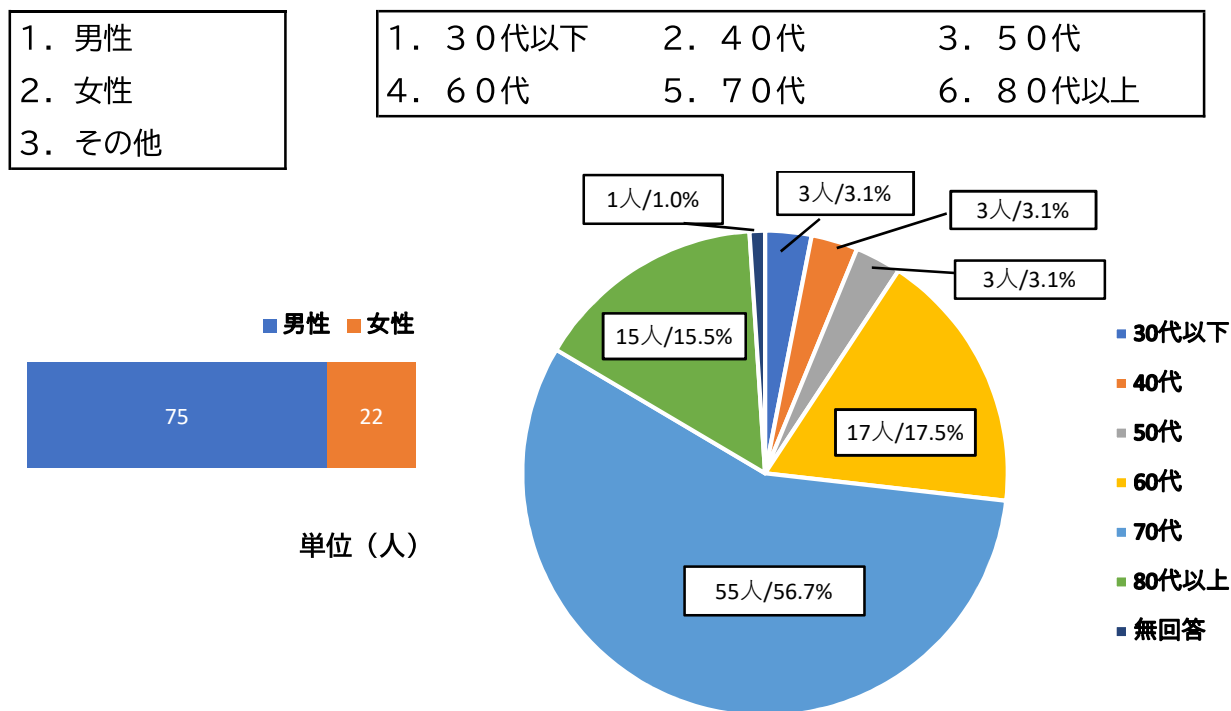


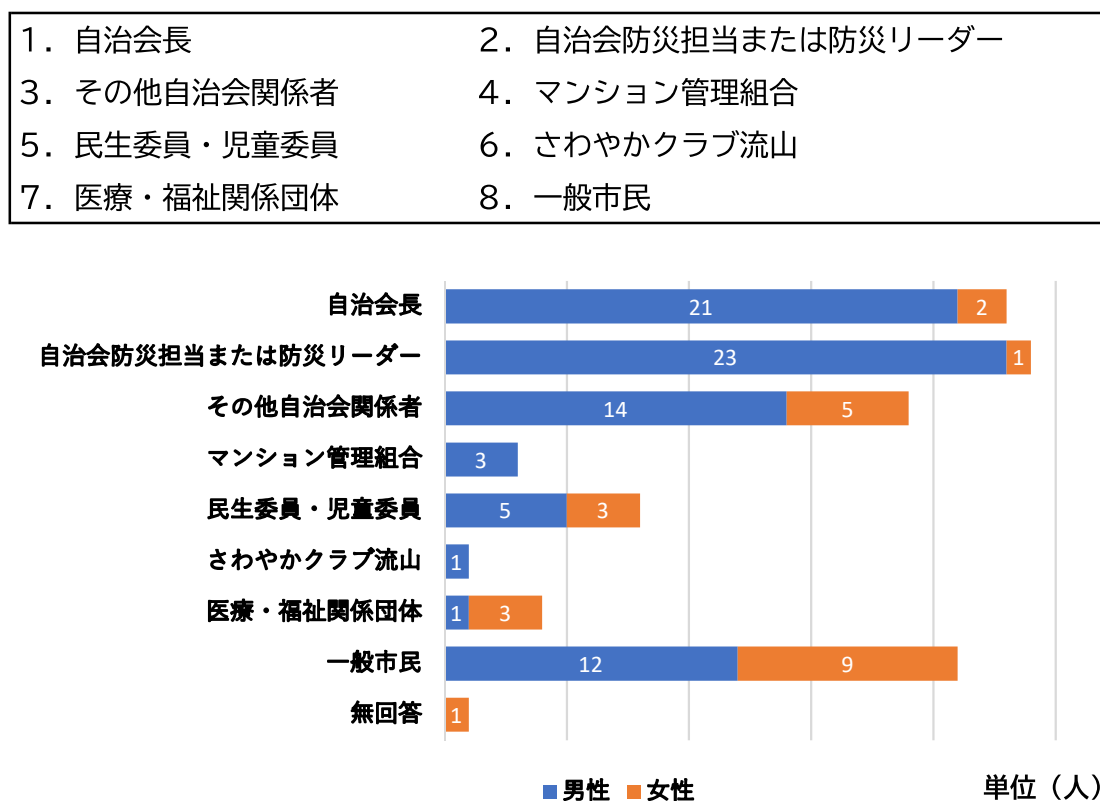
「災害に備える地域づくり～日頃の見守り、支え合い活動を通じて～」講演会 参加者アンケート

◆当日参加された方を対象としたアンケート調査の結果です。（回答者97名）

（１）性別・年齢を教えてください。（当てはまるもの、それぞれに○）

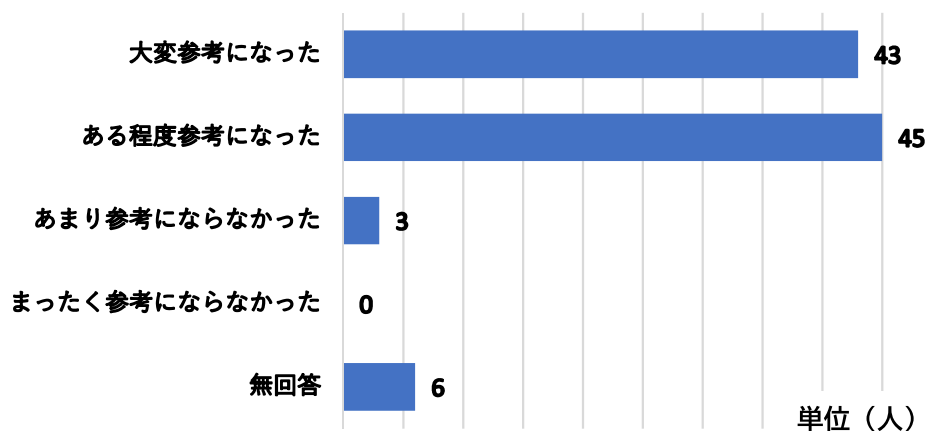


（２）地域とのかかわり方について。（当てはまるものに○）



(3) 今回の講演会はいかがでしたか。(当てはまるもの1つに○)

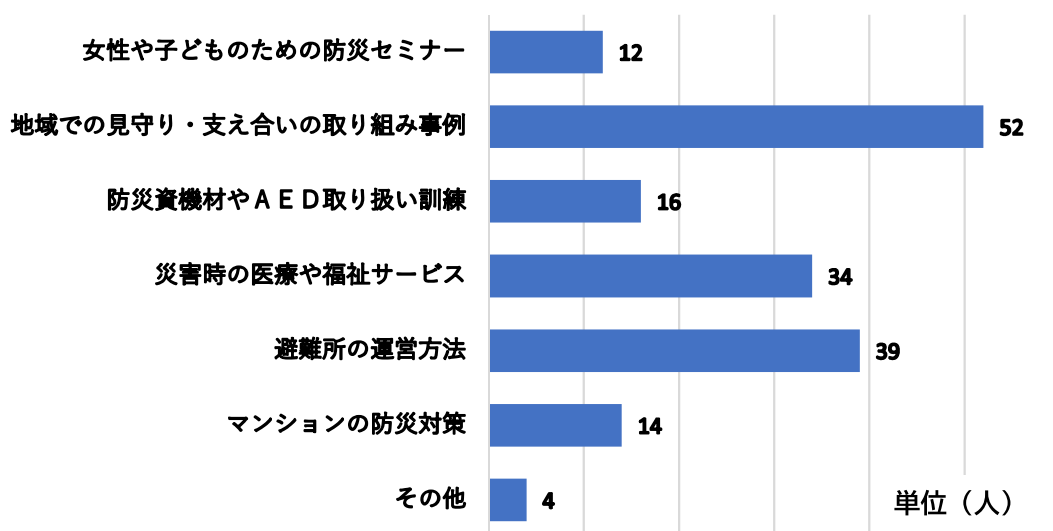
- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 大変参考になった | 2. ある程度参考になった |
| 3. あまり参考にならなかった | 4. まったく参考にならなかった |



(4) 今後、防災・支え合い活動に関して知りたい内容がありますか。

(当てはまるものに○)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 女性や子どものための防災セミナー | 2. 地域での見守り・支え合いの取り組み事例 |
| 3. 防災資機材やAED取り扱い訓練 | 4. 災害時の医療や福祉サービス |
| 5. 避難所の運営方法 | 6. マンションの防災対策 |
| 7. その他 | |



(その他の回答) ペットの防災について、ペットの避難対策、災害情報入手方法、訓練あるのみ

(5) 防災の取り組み、支え合い活動などについて、ご意見などご自由にお書きください。

・ 高齢家族となり、災害時の心配事が増えてます。
・ マンションで年に1度ほど防災についてやっていますが、もう少し回数増やしたほうが良いですね。
・ 総合避難訓練、障害者も参加できる、一緒にやるという環境づくりよろしくお願いします。
・ どんな災害でどう対応したかとか、先進の町会の人のお話もお聞きしたいです。
・ ペットの避難場所が少ない。ペットを飼っている人のみの避難所も作るべきでは？
・ 聴覚障害者の方のことは考えもしなかったので、とても勉強になりました。
・ 解りやすい講座でした。有りがとうございました。
・ 実際に災害が起きた時には、自分にできることはやれればと思っているものの、具体的にどういう行動をするのか、効率的に動けるのか、まだうまくイメージできていないと今日あらためて感じました。具体的な事例や、他の地域のとりくみなどから学べる機会があれば学んでいきたいです。
・ 日頃、社協見守り、支え合い活動を行っている。市が地域に求めるものは何か？市の中で活動の整理が必要。その上で地域の見守り、災害時の助け合い活動の広がりがもっと必要と思う。
・ 防災計画立てなくちゃとずっと思いつつなかなか進みませんでした。でも、少しずつやっていくことしかないなとあらためて思いました。
・ 自力で避難出来ない高齢者の多い自治会では、自治会単位で支え合い活動を強化すべきだと思うが、現実には起きないと他人ごとの様に考えている傾向がある。市で一斉避難訓練の日を設定して各自治会で訓練する日（春秋のゴミ0運動のように）があっても良いと思う。課題（問題）も見つかる。
・ 地域支え合いの名簿の方は、災害時にも目をかけてあげなければいけないと改めて気づかされました。大災害は未経験なので、自治会長として地域の方々とどのように生活が落ち着くまで動いていくとよいのか、被災地の方々の工夫や成功例、失敗からどのようにしたらよかったのかといった具体的なお話なども知ることができたらと思いました。本日は貴重なお話をありがとうございました。
・ 日常での防災の取り組み、市役所内の関係部署多岐にわたる。横の連携を十分に！
・ 行政側の具体的な指導が今のところない。
・ 実際にはなかなか難しいと思った。
・ この講演会を、今後会場とZOOMで実施することを検討してほしい。
・ 現状対応なし。今後の課題。
・ 今回、水害中心の話だったが地震についての話も聞きたい。耐震診断について聞きたい。
・ 継続的にこのような講演をしていただきたい。
・ 福祉担当の動き方がよく見えました。今後更に充実させます。ありがとうございました。
・ 「自分だけ逃げる」人、「自治会活動に参加しない人」に対してどのように自治会として対応すべきか？放っておいて良いのか？
・ 流山はこれまで大きな災害がなく、災害を身近なものと感じないことが問題。こわさ、体験等取組みのきっかけをいかに持てるかが課題と思う。
・ 地域全体の高齢化、自治会未加入者の増加、個人情報保護等を考慮した災害時における要支援者への支援のしかたを教えてください。（自治会防災担当）

・ 支え合い活動。自治会役員は1年交替であり継続した活動が難しく、高齢化も進んでいる。ボランティアのなり手がいない。人もどのように確保すれば良いか？
・ 首都直下地震に特化した話を聴きたい。（特にマンションに於いて）
・ 防災情報の入手方法、ハザードマップの見方やタイムラインの作り方など、個人がそれぞれふだんからできることについて勉強できる機会があるとよい。
・ 事例でうまくいっている自治会の例とか、こんな失敗があったとか、運営事例を紹介してほしい。若い人を取り入れる方法？
・ 配布されたレジュメの他、パワポでの資料を市のホームページにて共有できたらお願いしたい。
・ 市が地域との取り組みをどう考えているのか。避難所の運営を地域まかせにしている。
・ 自治会の役員として参加しましたが任期もあとわずか。開催の時期は年度初めの方がありがたい。保存版「水害から命を守るためにあなたへ伝えたいこと」を自治会で配布できないか。市の職員にとっても重要な内容だったのではないか。
・ 自治会の支え合い活動、個別避難計画の基礎となる「大変なひと」の情報を自治会に公開して欲しい。具体的な検討ができず空論になる。
・ 私も以前から名簿の人数が適当すぎると思っています。ほんとうに支援が必要な人を絞って個別のPlanをたてるのが良いと思います。又、ケアマネージャーと民生委員の横の情報交換は必須だと思います。利用者にとってケアマネと民生委員がばらばらにアプローチするのは効率的でなく、混乱を招くと思われます。
・ マンションの自治会関係者として、自助、共助、近助、公助をどのように活かしていくかを考えてみたいと思いました。
・ 自治会員の高齢化により、防災や支え合い活動は非常に重要と考えます。特に支え合いでの声かけ運動を実施中です。
・ 医療や福祉サービスの事業者がもっと参加してくれると良いと思いました。（せっかく良い話だったのに）
・ 避難訓練を市主導で実施出来ないか。
・ 流山の災害リスクの具体例。
・ 支え合い対象者名簿の活用について、集まりを開催してはどうですか。
・ これからもご支援下さいますようお願いいたします。